

園だより

～笑顔いっぱい～

令和7年6月1日 若松第一保育園

TEL : 0242-27-9271

<https://wakamatsudaiichi.wakahokyo.com/>



晴れたり雨が降ったりと天気の移り変わりが多いこの時期…ですが、子どもたちは元気いっぱい！汗をかくほどに園庭を駆け回り遊んでいます。また、先月は各クラスが食育の一環として野菜の苗を植え、栽培活動をスタートさせました。事務室前とプール側の畑やプランターに植えてありますので、ぜひ、送迎時にお子さんと一緒に生長の様子を見てみてくださいね！

今月は、プール開きや親子遠足など楽しみな行事が盛り沢山です！子どもたちが日々の活動、一つ一つの行事を思いっきり楽しみ、たくさんの思い出を作っていけるよう、安全面に配慮することはもちろん、一人ひとりの姿に寄り添いながら保育をしていきたいと思っております。

今月の行事予定	
2日(月)	愛情弁当／個別面談(りす組)～6日(金)まで
3日(火)	尿検査
5日(木)	集金日
7日(土)	3・4・5歳児親子遠足(会津村)
9日(月)	個別面談(ひよこ組)～13日(金)まで
10日(火)	プール開き
11日(水)	歯科検診
12日(木)	避難訓練
16日(月)	参観デー／個別面談(たんぼ組)～20日(金)まで
17日(火)	誕生会
30日(月)	集金袋・おたより配布

大きな事故に繋がる前に…

先日、クラス前に張り紙をさせて頂きましたが、朝夕の登降園の際、駐車場から保育園までの道路を子どもだけで走っている姿が見られました。園の前の道は狭いですが、車は通ります。車にぶつかりそうになることもありましたので、十分に注意して下さいませようお願い致します。

今年度も参加デーがはじまりました！

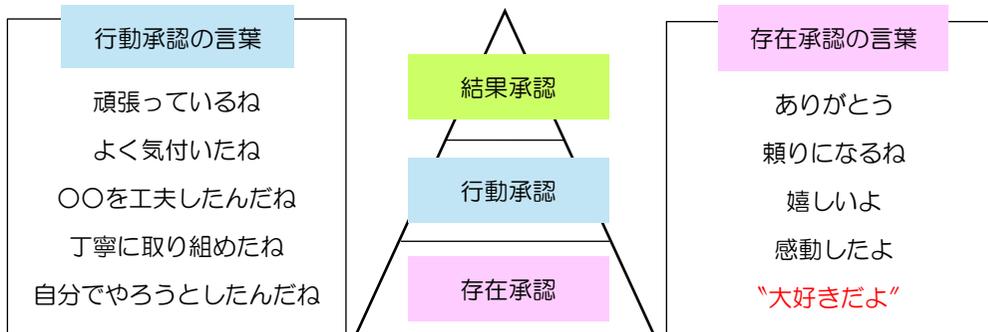
5/16に今年度初の参観デーが行われ、各クラス、散歩や園庭遊び、製作活動などを楽しみました。子どもたちが日々の生活や活動にどのように取り組んでいるのか、散歩先で何と出会い、何を感じ、どんな体験をしているのか…改めて見て、感じていただけたと共に、お子さんと楽しい時間を共有することができたのではないのでしょうか？子どもたちの姿、表情からお家の方と一緒に過ごせた喜びが感じられ、微笑ましかったです♡
保育園での様子やお子さんの成長を間近で見ていただける貴重な機会…これから参加のお家の方も楽しみにしててくださいね！

すごい！や上手！…より、自己肯定感を高めてくれる言葉かけ

子どもたちの自己肯定感を高めるためにしてあげたいのが、『褒める』よりも『承認(認めること)』。そして、この『承認』には、ピラミッドがあります。

褒める言葉としてよくある「すごい」や「上手」は『結果承認』。この言葉ばかりになってしまうと、結果が悪いと褒めてもらえない…と潜在的に思い、意欲の低下などに繋がることも。そのために、大事にしたいのが、『存在承認』と『行動承認』。

では、この2つの『承認』に繋がる言葉かけにはどんなものがあるのか、ご紹介！



『存在承認』も『行動承認』も、褒めなくていいんです。子どもたちの存在を、行動を認めるだけ。そして、「すごい」や「上手」もダメな言葉ではありません。使う時に、他の言葉と組み合わせることを意識してみてください！例えば…

- ① 「自分で片付けができたんだね。すごい！とっても助かったよ、ありがとう」
- ② 「〇〇のところが上手で、感動したよ。たくさん練習していたからだね」

などなど、それぞれを承認する言葉を組み合わせていくだけで、子どもたちの受け取り方や伝わり方は、変わっていくと思います。

また、『結果承認』は、様々なところでしてもらう機会が多い分、子どもたちの身近にいる私たち大人が、たくさん『存在承認』と『行動承認』をしてあげられたらと思っています。特に、大好きな人からの「大好きだよ」という言葉…『存在承認』は子どもたちの大きな力、自己肯定感へと繋がっていくと共に、自分の居場所はここにあるという感覚も生み、幸せな気持ちになっていきます。他にも、名前を呼ぶ、感謝を伝える、目を見て話をする、聞く、スキンシップを図るなど様々な伝え方、認め方があります。できる方法と一緒に子どもたちを『承認(認める)』していく関わりができれば嬉しいです。



今年の2月、約5年応援してきたグループの解体が発表され、オタクとしてどん底を経験した私。『推しは推せる時に推せ』という言葉がオタクの中にはあって、本当にその通りだなと言葉の意味を痛感。…そんな中、先日クラスの子どもたちからもらった手紙に『もう1年しか一緒にいられないから、みんなで楽しく遊ぼうね』の言葉が。りす組から一緒に過ごしてきた子どもたちとの別れが待っていることを改めて感じました。別れの時が分かっているのであれば尚更…『今、自分にできることを子どもたちのために全力でしよう』と、この言葉が鼓舞してくれています。